



JSABs
Japan Society of Applied Business Studies

日本ビジネス実務学会

会報 No.60

2014年4月10日発行

発行/日本ビジネス実務学会広報委員会

事務局/〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15 自由が丘産能短期大学内 TEL/FAX03-6809-7131(直通)

URL: <http://www.b-jitsumu.com> / e-mail: business.jitumu@gmail.com

ビジネス実務研究の社会的な意味

池内 健治(自由が丘産能短期大学)

ビジネス実務の現場の変化は激しく、実状の多様性も増しているようです。本学会の研究者や教育関係者は実務の現場を把握しにくくなっているのではないのでしょうか。社会経済的な揺らぎや科学技術の変革があつという間に世界中に広がり、私たちの現場も影響を強く受けています。このような混迷の環境にあるからこそ、ビジネス実務研究の重要性が増しているのではないのでしょうか。また、研究成果を一人ひとりの実務者の能力開発につなげる必要があります。



本学会は実務の現場を研究の対象としており、研究成果を実務現場の変革と実務者の能力開発に活かしていくことを目的としています。変化の激しい時こそ、研究に対する社会的ニーズが高まり、それに応える責務が増しているのではないのでしょうか。昨年の全国大会から、理事会や常任理事会(総務企画委員会)で本学会の研究領域の再確認と継続的發展をめざした規程の整備について議論を重ねてきました。その議論を踏まえて、次年度は学会全体にその議論の輪を広げ、次のステップに備えたいと考えます。

この原稿を作成している3月初旬、3.11東日本大震災から3年間という時間が過ぎようとしています。すべての社会生活の基盤がひっくり返るような不安と動揺を経験したにもかかわらず、1000日という時間が経過した現在、記憶が過去のものになろうとしています。ところが、世の中は着実に変化し、福島原子力発電所の危機的な状況は何も解決していません。取り組むべき課題をしっかりと受け止めて、問題を掘り下げ、解決に向けた努力が必要だと考えます。

ビジネス実務学会の研究においても、ビジネス実務の現場の重要な課題を正面から受け止めて、その課題に粘り強く取り組んでいきたいと考えます。ITをはじめとする科学技術の革新、国際環境における企業競争力の変化、市場環境の変化などの影響を受け、一人ひとりの実務の現場は着実に変わりつつあります。

自ら働く場を獲得し、その場で成長をして、充実した社会生活・職業生活を営むためには、ビジネス実務能力の開発が欠かせません。ビジネス実務研究の社会的な意味は、ここにあると考えます。2014年度、会長としての任期の最後の一年を迎えます。社会からその必要性を認められる学会として継続的できる基礎を築く年としていきたいと考えます。

Contents

会長挨拶	1
委員会活動・第33回(2014年度)総会・全国大会のご案内	2
2013年度ブロック研究会活動報告	
北海道、関東・東北ブロック	3
中部、近畿ブロック	4
中国・四国、九州・沖縄ブロック	5
発表一覧	6
2013・2014年度ブロック運営委員	8
新入会員	8